

3 家庭生活に関する意識と実態

女性の生き方としては、「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立」、男性の生き方としては、「家庭生活・地域活動にも携わるが、あくまで仕事優先」を支持

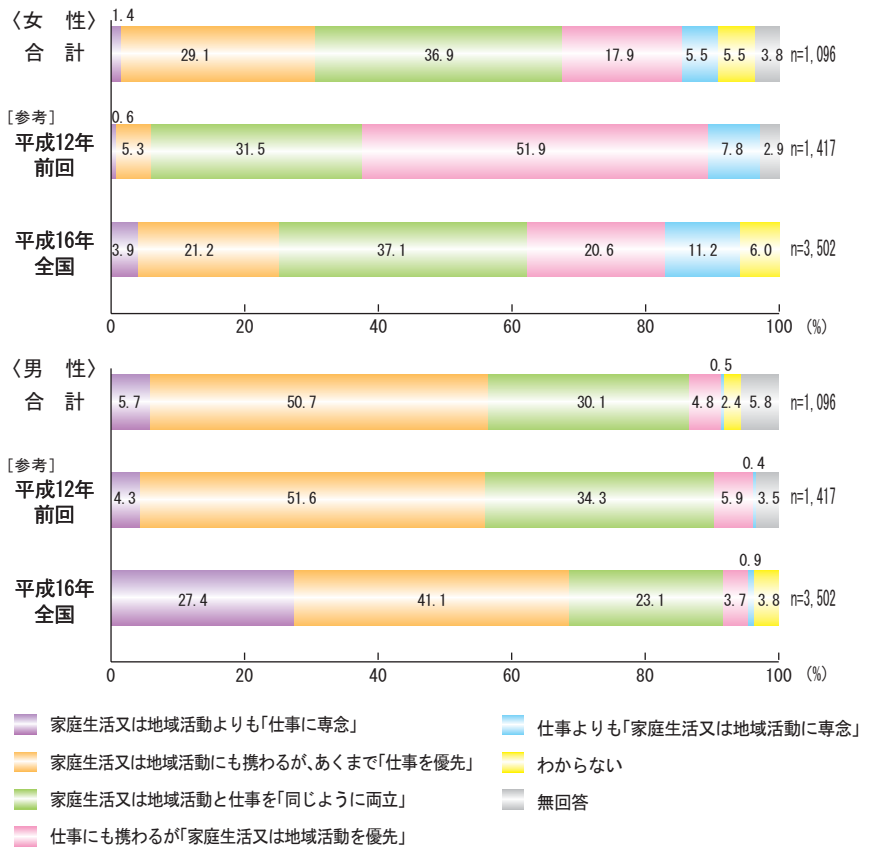
女性の生き方としては、「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立」が望ましいとする割合が最も高く、36.9%を占めます。一方、男性の生き方としては、「家庭生活・地域活動にも携わるが、あくまで仕事優先」が望ましいとする割合が50.7%と最も高く、男女それぞれに対する意識の差がはっきりと現れています。

仕事と家庭の両立のためには、男女とも「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」が必要

仕事と家庭の両立のためには、男女とも「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」が必要と考える割合が最も高く、女性で49.4%、男性で41.2%となっています。

このほか、女性では「退職後の復職・再就職制度の導入」「保育・介護サービスの向上」が、男性では「労働時間の短縮・休暇制度の普及」「固定的性別役割分担意識の解消」「柔軟な勤務制度の導入」が必要と感じる人の割合が比較的高くなっています。

女性と男性の望ましい生き方



※ 前回データ：男女共同参画社会づくりのための県民意識調査(平成12年9月宮城県)
 ※ 全国データ：男女共同参画社会に関する世論調査(平成16年10~11月 内閣府)

仕事と家庭の両立のために必要なこと(MA)

